

## 無口な子供を教育した實驗

### ○毬唄でさそひて

静岡市私立櫻  
花幼稚園長 宇式 かん

私の尤も興味を以て保育せし一人の女兒につき、此子供數へ年六才にて四月入園致しました。家は兩親と妹一人との四人の家族、それに下女が居りまして、家長の職業は骨董の仲買、先づ豊に家内圓滿といふので御座います。此女兒始めて母親に伴はれて參りました時、母親の申しますには身體は御覽の通り大きく、これと云ひて病氣もありませぬが、たゞ物云ふこと出來ず、これまで名ある醫師の診察も乞ひ種々手當をも致しましたが、更に効なく、或醫師の申さるゝに、この上は幼稚園に入れ、多數の子供と遊ばせる事が出來れば、或は物云ふことの出來得る様になる哉も知れぬ。夫れより外に道なしと云はれました。どうぞ強て入園を

お願ひ致したいとのことで御座いました。即ち其幼兒を見まするに、母親の申す如く、體格はよし、色艶もよく、元氣もよき、福々とした圓滿の幼兒でありまして、物云ふことは出來ませぬも、耳は聞ゆる様子であります故、鈴を振りて試みましたるに、慥に聞ゆることを認め、心強く思ひて兎に角入園を許しましたのでした。で當分は自由に任せ置く内も、成可く言葉の明瞭な幼兒の側に置き、自由遊びの際も注意して話好の幼兒と遊ばせ、六ヶ月程立ちましたが何の驗も見えませんでした。何とかして今少し工夫をして見なければならぬと思ふ折から、毬歌の流行の頃となりましたので、此の毬歌によりて聲を誘ひ出さうと苦心しましたが、そうかうする内、遂に其の年も暮れました。翌新年に母親が其の子と共に年始に參り、其時其母親が御蔭様にて口の内にて何やら申す様に相成り誠に

有り難く存じて居ります。併し只にては依然何も申す事出来ませぬが、毬を持ってば、言葉は何やら聞取れませぬが毬を持って居る間は始終何やら申す様になりました。實に何とも云ひ知れぬ程嬉敷感じますと申されましたので、始めて口のきける糸口を得たと思ひ、夫れより口の形にて少しづつ、發音を始め、成可く自然に任せる方針を取り、日を追ひ月を重ねるに隨ひ、漸次「おはよう」又は先生等の言葉がおぼろげに云へる様になりましたのは、入園後一年二ヶ月程でありました。夫れから目に見えるやうに物云ふこと出来、友達と遊ぶことも出来、又物云ふことを自分でも面白いと思ひますにや、何物を見れば必ずこれは何と尋ね、其物の名の云へるまでは幾度も繰返して、にこ／＼として居りました。其内に學齡に近づきましたから、入學の可否につき母親が相談に參りましたが、今直ぐ入學させることの不可能なることを話し、一ヶ年の猶豫の手續きをして、其翌年は一ヶ年遊ぶ

覺悟で入學しましたるに其通り其年は遊び、其翌年、普通より二年後れて、一學年を普通に稍劣る位の成績で修業いたし二學年になりましたが、丁度其時其妹が入園しました處、二三ヶ月の後途中で其子に出合ひましたとき『先生妹が入園してお世話様になります』と立派に挨拶を爲しました。二學年より先普通に尋常科を終へ、女學校に入學し、二學年修業の後、今は家庭にありて普通裁縫の稽古に通ひ、何れに出しても恥しからぬ立派の娘となり、此の春になりました或高等學校に修業中の某を迎ふる婚約が出来ましたと、一家の喜び計り知られぬ程であります。これ實に我子の將來を考へて心をつくした母親の眞の愛の賜に外ならぬと信じます。此の母親の心勞は實に今の成功を生みましたので、其當時の憂きも今は大喜びとなりましたのであります。一體この女兒の母親は、それはよく子供と云ふことにつきて、眞に心を用ひ、入園當時より今日に至るまで、人の察し得られぬ

憂きことも耐へ忍びましたことは、敬服の外なく私共皆存じて居りますので御座います。

### ○自重心に訴へて

岡山市 幼稚園長 折井彌留枝

無口なる女兒の園内に於ける有様を申し上げます  
年齢は唯今六歳余で、來る四月より尋常へ入學の筈であります。入園は大正三年九月で有りますが、爾來同四年三月迄年少の組に編入して有りました。入園以來一ヶ年間は殆ど一言も申せし事なく、朝夕の挨拶は勿論、其他自身より語る事もなく、尋ねし事も答へず恰も啞者同様の子供で有りました。が、日日手をかへ品をかへ、種々誘導いたしました。常にか此子供の爲に特に注意をして個性を調べて居りました處が、此節では其甲斐が有りました。段々そのを言ふ様になりました。今其狀況を申し上げますが、先づ入園後二週間程は腰を掛けず、

只々保育室の隅へ〜と後ずさりするばかりで、顔をあげず、只俯いて下をながめるばかりで有りました。殆ど困りましたが、段々馴れると共に二ヶ月程してから、腰を掛ける様には成りましたが、唱歌をうたはず、遊嬉や手技などには一向手も出さず、一體何が面白くて日々通園するのか殆んど分らず、色々研究いたして居る中に、早や年度も變りまして、大正四年四月となりましたから、年長の組へ繰上げたならば、何かの動機に依つて口をきく様になるかも知れぬと思ひまして、組を繰上げました。處が一期の間は相變らず元の通りで有りました。併し様子を見るに年長者の組に繰上げられたのは、少しもいやな様子でない様である。斯くて第二期に入つた頃、其子供を別室に招き色々物語をいたしました末に、「アナタ」も一つ年も大きくなつて大きな組にお成りなされたのに、なせ物をおよいなさないのですか、先生が呼びました時にお返事をなさらない様では大變困りますから、